

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 1 日
 所 属： 獣医 学部 獣医 学科
 氏 名： 村上 賢 職位： 教授
 役 職： 大学教育推進機構長、学長補佐(特命・渉外担当)

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

獣医学科基礎獣医学系の教員であり、獣医学科1年次に細胞生物学や分子生物学の専門基礎を、獣医学科3年次に生命科学分野のアドバンス専門科目として最新のバイオサイエンスを教えている。また、動物応用科学科の専門基礎科目として1年次と2年次に、それぞれ細胞生物学と分子生物学を教えている。獣医学科学生の獣医学特論のゼミ活動や卒業論文の作成指導を行なっている。大学院では、獣医学研究科獣医学専攻博士課程の学生の研究指導を行い、分子生物学特論や特別演習、特別実験など、いくつかの科目を担当している。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
細胞生物学	獣医学科	必修	1	166
分子生物学	獣医学科	必修	1	163
最新のバイオサイエンス	獣医学科	選択	3	120
細胞生物学	動物応用科学科	必修	1	170
分子生物学	動物応用科学科	必修	2	155
獣医学特論 I	獣医学科	必修	5	6
獣医学特論 II	獣医学科	必修	6	5
卒業論文	獣医学科	必修	6	5
分子生物学特論	獣医学専攻	選択	1	3
分子生物学特別演習 I	獣医学専攻	選択	1	3
分子生物学特別実験 I	獣医学専攻	選択	1	2
分子生物学特別演習 II	獣医学専攻	選択	2	4
分子生物学特別実験 II	獣医学専攻	選択	2	4
動物応用医科学特論 I	動物応用科学専攻	選択	1	3
動物応用医科学特別演習 I	動物応用科学専攻	選択	1	3
動物応用医科学特別研究 I	動物応用科学専攻	選択	1	3

2. 教育の理念（育てたい学生像、あり方、信念）

学生自身が勉強することを楽しみながら、知識を得て、学問（生命科学分野）のおもしろさを知ってもらうことを目指している。また、知識を得て、論理的でエビデンスに基づいた深い考察ができる学生を育てたい。教員は、その手助けをする（ヒントを授ける、技術を手ほどきする）だけで、答えは学生自らが出せるようにしたい。この経験が社会に出てから新しいことに挑戦する際に大いに役立つと考えている。

具体的には、生命に関わる将来の科学者として、動物に関連する生命科学の知識を習得するだけでなく、分析する思考力も養い、生命科学分野における課題発見能力や問題解決能力を習得することを目指す。生命科学に関する話題に興味をもち、持続的に科学的思考力と応用能力を展開させ、社会貢献できる人材を養成することを目指す。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法）

担当している生命科学分野の授業科目群は、生命現象を細胞や分子のレベルで解明しようとするものであり、そのため内容が複雑で難しくなってしまう部分もある。すぐには理解できず、じっくりと考えなければならないことも多い。だから、面白いのである。本学問は、これから多くの生物系学問をより深く学ぶための基礎として、また教養として重要であり、まず面白さを感じてほしい。専門用語をただ単に暗記して知識を増やす授業ではなく、もの本質を考え、本学問に関連する分野に興味をもって勉強に取り組んでもらえるような授業にしたい。また、単に興味をもつだけでなく、自らさらに掘り下げて調べ、一步踏み込んだ勉強ができるような授業にもしたい。面白くなって、自ら知識を身に付けていけば、より高度な考えや活用ができるようになっていく。将来、動物に関わる専門家として研究や仕事に携わろうとしている学生さんが、細胞や分子に関する専門用語などの基礎知識を学ぶだけでなく、興味をもって取り組んで考える力を養えることを意識して講義をする。

大学1,2年生には、いくらか専門的過ぎる講義になることがあるかもしれないが、ある程度理解している（または、理解しようとしている）学生さんには刺激になる講義を意識して実施する。高校とは違って、ある程度ハイテンポな大学らしい講義を感じてもらい、いくらか緊張感のある、つまり、ある程度集中して聴いて理解できるような講義をしていきたい。

本分野は進展スピードが特に速く、最先端の研究であればあるほど内容も複雑で、かなりの知識をもっていないと理解できない部分も多くなる。しかし、最新の情報を伝えることは大切で、必要であり、それが勉学意欲の刺激になると考えるので、適度に講義に組み込んでいく。あまり噛み砕き過ぎた授業は、ある程度理解している学生にはかえってつまらなく、興味をなくす危険性がある。従って、最近の研究論文や学術雑誌からの情報、話題は、図やアニメを用いてときどき紹介する。また、学生さんができるだけ興味をもてそうな本分野に関する身近な社会関連情報も適宜取り上げるとともに、わかりやすく、詳しく記載されている参考書（最新の改訂版）も紹介する。

基礎的知識として覚えなければいけない（覚えて欲しい、試験にだす）内容と、大いに感

じとって欲しい（覚える必要はない、興味をもって欲しいだけ、試験にもださない）内容とを明示して講義を行い、メリハリのある講義にしたい。本授業を受けることにより、分子レベルでも生物学を語れるような能力を身につけてもらいたい。

アクティブラーニングについての取組

講義内容をもとに、できるだけ学習者自らが調べ、考えなければならないレポート課題を課すようにしている。ただし、それらのレポートなどをもとにしたグループディスカッションやグループワークなどは実施できておらず、取り組みを工夫する必要がある。

ICTの教育への活用

授業資料を講義前日からラーニングサポートシステム「學理」「Azamoodle」へアップした。

Google Meet による同期型の授業も必要に応じて行った。授業内容はオンデマンドでも対応できるようにした。講義内で実施しているクイズを学生自身でいつでも繰り返し解答できるように Google form を利用した。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

②学生の理解度の把握（B）

③学生の自学自習を促すための工夫（A）

④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A）

⑤双方向授業への工夫（C）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

生命科学分野の学問は進展が早く、また難解な内容も多くなりがちであり、本学問への学生の興味の有無でどうしても理解度に差がでてしまう傾向がある。各講義項目と指定した教科書の項目ページの関係を分かりやすくした。また、獣医学科の学生には獣医学モデル・コア・カリキュラムとの関連も明確にした。シラバスに記載した項目の順番に沿って、毎回の講義の全体における位置付けを明確にして、比較的ゆっくりと授業を進めるように内容を解説し、何をどの程度学べるのかを意識させるようにした。ポイントとなる用語や、毎回講義のスライドのハンドアウトを「學理」「Azamoodle」に掲示した。今年度は、原則、対面式の授業形態となった。授業内容は Google Drive を用いた動画配信によるオンデマンドでも視聴できるようにした。動画には、理解度を上げるのに効果的であるアニメーションも利用した。質問等については授業時間中はもちろんのこと随時、eメールで受付けて対応した。自学自習を促すために、レポート課題を課した。選択形式のクイズを適宜、講義内で実施して解説を行い、復習ができるようにした。

獣医学科の学生については、共用試験や国家試験に出題される内容であることを時々明示して、緊張感を持たせ、授業に集中させるようにした。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。(V 学科, M 学科の教員の方のみ記載してください。)

低学年では、講義内容(項目)が国家試験の過去問に関係している場合は、その旨を伝え、丁寧に解説して、国家試験問題のレベルや内容の意識づけを行った。

6年次には問題中心の補講を実施した。多くの問題をスライドで示し、緊張感を保つため学生に解答をもとめるとともに解説をして理解を深めた。

5. 学生授業評価

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

授業評価を受けて授業方針を対応した。授業評価では、ほとんどの学生が意欲的に取組んでくれており、授業内容も概ね理解していた。概ね良好な授業評価であったため、これまでのやり方を原則、踏襲した。スライドに図やアニメを多用し、よりわかりやすくなるように工夫した。数回の講義毎にレポート課題を課して、理解度を評価した。また、授業内で当日の講義内容についてクイズ形式の問題を出して対面の学生に対して解答を求め、皆が集中できるようにした。解説も行い理解を深めるようにした。より理解を深めるために、教科書や参考資料のページ数を示し、各講義項目との関係を分かりやすくした。授業教材(講義スライド、講義要点を記載した pdf)も講義前日から「學理」「Azamoodle」へアップロードして事前に勉強ができるようにした。

② ①の結果はどうでしたか。

丁寧に理解が深まった、しっかり復習できた、面白く楽しかったなど好意的なコメントが見られ、機会があれば本学問分野をさらに勉強したいとの意見も多く、本学問分野へ興味をもってもらうという本来の目的は達成できたと考える。レポートや講義内クイズは復習に有効であったと考える。

② ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

丁寧なシラバスと教科書との連携、事前の授業教材の「學理」「Azamoodle」へのアップロード、図やアニメを多用したスライド、レポートや講義内クイズの利用は、予習・復習の実施、講義への理解度の向上には大いに役立ったと思われるので、継続したい。自学習での検索も必要とする発展的な内容もこれまで通りレポート課題に取り入れたい。今後は勉強をして実力がついたことを学生自身が認識できる評価方法も工夫したい。双方向の質疑応答や課題等へのフィードバックにはもう少し工夫を凝らしたい。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

調べて考えるレポート課題を課したり、講義内でのクイズ問題とその解説を充実させる。学生にクイズ問題を作成してもらうようにする。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

授業評価アンケートで、一部の学生から復習できた、理解を深められたとのコメントがあるが、全体の有用性はまだ判断できていない。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況) (分量の目安: 1~2 行 (40 字~80 字))

FD 研修会には積極的に参加しており、授業改善や指導力向上につながる取り組みは積極的に導入するように意識している。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。(分量の目安: 3~6 行 (120 字~240 字))

長期的には、学生自身が勉強することを楽しみながら、知識を得て、学問 (生命科学分野) のおもしろさを知り、さらに、論理的でエビデンスに基づいた深い考察ができるようになってもらいたい。そのために、生命科学分野における分析する思考力、課題発見能力や問題解決能力を習得できるように手助けをしていく。短期的には、本学問分野に興味を持ち続けられるように、これまでのメリハリのある講義内容を継続するとともに、本分野における学生の知識力だけでなく、思考力や分析力を測る方法を検討していく。資格養成学科でない学生にいかに興味を持たせるかを工夫したい。

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ

(自ら作成するもの)

1. 授業に関するもの

シラバス, 小テスト, 宿題, レポート課題, 試験問題, 教材 (配布資料, パワーポイント資料など)

2. 教育改善に関するもの

(教育に直接貢献する研究, FD プログラムなどへの参加記録, 教育の工夫を示すもの (複数年のシラバス等), 教育活動関連の補助金の獲得)

(他者から提供されるもの)

1. 学生から

授業評価データ, 授業に関するコメント (授業評価の自由記述やメールのやりとり等), 卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評, 作成教材についての意見, 同僚のサポート実績

3. 大学/学会等から

教育に関する表彰, 教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類, カリキュラムやコースの設計などについての評価

(教育/学習の成果)

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化, 学生の小論文・報告書, 学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例, 特に優秀な学生についての記録, 指導学生の学会発表などの成果, 学生の進路選択への影響についての事実, 学生のレポートの改善の軌跡